

総務委員会資料

所管事務の調査（報告）

キングスカイフロントにおけるクラスター運営体制 の整備について

資料 キングスカイフロントにおけるクラスター運営体制の整備について

参考資料1 殿町国際戦略拠点キングスカイフロントの拠点形成
の状況について

参考資料2 リサーチコンプレックス推進プログラムの成果
(平成27年度～令和元年度)

令和2年2月6日
臨海部国際戦略本部

1 これまでの経過

【拠点形成の主な経過】

- 平成20(2008)年 9月：旧いすゞ自動車工場跡地について、ライフサイエンス等の研究開発拠点への展開を目指した「殿町3丁目地区整備方針」策定
- 平成23(2011)年 3月：殿町3丁目地区を「キングスカイフロント」と命名、本格的な誘致活動を開始
- 平成23(2011)年12月：国際戦略総合特区に指定
- 平成25(2013)年 6月：国家戦略特別区域に指定
- 平成28(2016)年 4月：キングスカイフロントマネジメントセンター開所
- 平成29(2017)年 9月：羽田連絡道路着工
- 平成30(2018)年 2月：キングスカイフロントネットワーク協議会設立

2 キングスカイフロントの現状

(1) キングスカイフロントの特長

- コンパクトなエリアに、ライフサイエンス分野を中心に多様な立地機関が集積(69機関)
- 最先端の基礎研究や製品化に向けた**応用研究段階の企業・研究機関**が集積するとともに、国立医薬品食品衛生研究所や実験動物中央研究所等の**評価・支援機関**も集積
- J & J、島津製作所等最先端医療を担う**医療機器、分析機器の企業**が集積
- ペプチドリームをはじめとした産学連携による研究開発を行う**ベンチャー企業**が立地
- 慶應義塾大学、東京工業大学等**複数の大学の拠点**が立地
- 川崎市やキングスカイフロントネットワーク協議会を中心に、魅力的な**まちづくり**や**操業環境の向上**等の取組を実施

(2) 羽田連絡道路で結ばれる羽田空港跡地地区との一体的な拠点形成の進展

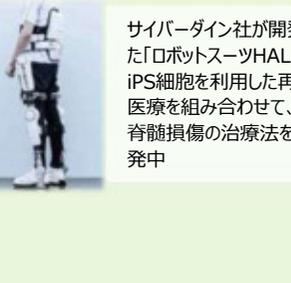
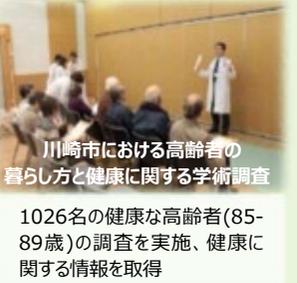


3 キングスカイフロントで展開中の大型研究開発プロジェクト

(1) リサーチコンプレックス推進プログラム

- 目的：研究開発、成果の事業化、人材育成、推進体制強化を一体的・統合的に展開するための拠点の成長と発展を支援
- 支援期間・金額：平成27(2015)～令和元(2019)年度の5年間、約5億円/年
- 主な参画機関：慶應義塾、川崎市、実験動物中央研究所、**川崎市産業振興財団**
- 成果：

- 慶應義塾大学殿町タウンキャンパスの設置
- データサイエンス等新たな領域での研究開発が慶應義塾にて推進
- キングスカイフロントにおける研究基盤事業(創業、再生医療、データ・情報、医療機器・ロボティクス)の創出
- 拠点における運営体制の基礎となる顔の見える関係づくりの促進
- 研究開発クラスター(同種のもの相互に関連し合いながら集積している集合体)の成長



(2) 革新的イノベーション創出プログラム

- 目的：基礎研究段階から実用化を目指した産学連携による研究開発を支援
- 支援期間・金額：平成25(2013)～令和3(2021)年度の9年間、約3.5億円/年
- 主な参画機関：**川崎市産業振興財団**、東京大学、島津製作所、富士フィルム
- 成果：COINSにおける産学連携の研究開発を基に、難治性がん・アルツハイマー病等の治療薬開発ベンチャー企業が設立
複数のプロジェクトでナノシム利用によるがん治療が医師主導型治験の準備段階へ

(3) 地域イノベーション・エコシステム形成プログラム

- 目的：最先端研究の事業化促進、ベンチャー企業創出等の事業化モデルの構築を支援
- 支援期間・金額：平成29(2017)～令和3(2021)年度の5年間、約1.4億円/年
- 主な参画機関：東京工業大学、**川崎市産業振興財団**
- 成果：スパコンを活用した革新的創薬加速化の技術に基づいたベンチャー設立の準備段階にAI胃癌内視鏡診断支援プロジェクトがNEDOに採択、事業化に向けた実証研究

4 今後の取組

(1) キングスカイフロントのこれまでの運営

- ①キングスカイフロントネットワーク協議会(立地機関が主体となり、平成30(2018)年2月設立)が中心となって、**エリアマネジメント機能**(=産学公民が交流・連携し、魅力的なまちづくりや操業環境の向上を図ること)を担う。
- ②リサーチコンプレックス推進プログラムの採択を受け、慶應義塾と川崎市(川崎市産業振興財団を含む)が**クラスター化推進機能**(=研究・事業活動の活性化を図ること)を担う。

(2) 今後の取組

- ①リサーチコンプレックス推進プログラムの終了(令和元(2019)年度まで)を受けて、継続的にクラスター化推進機能を実施する体制の構築
⇒ キングスカイフロントにおける**クラスター化推進機能の整備・強化を図る**
- ②リサーチコンプレックス推進プログラム終了後、クラスター化推進展開のための競争的資金の獲得
⇒ 文部科学省所管の「共創の場形成支援」など、**新たな国支援プログラムの獲得を図る**

エリアマネジメント機能とクラスター化推進機能を両輪とした**クラスター運営**(*)を実施

(*)企業、大学、研究機関、自治体等が集積し、研究活動、事業化支援、人材育成等を通じて相互に連携・共創することで、地域に新たな付加価値を創出するまちづくり

クラスター運営



5 キングスカイフロントのクラスター運営体制の整備

公益財団法人川崎市産業振興財団を中心とした体制がクラスター化推進機能
を担いながら、川崎市産業振興財団が主体となって、キングスカイフロントのクラス
ター運営を展開する。

(1) クラスター運営における主な取組事項

- ①クラスター化推進機能
 - a. **企画調整機能** (競争的・民間資金の獲得、キングスカイフロント立地企業間調整等)
 - b. **窓口機能** (視察対応、キングスカイフロント立地企業と市内研究開発拠点とのマッチング等)
 - c. **広域連携** (LINK-J(日本橋)、Bio-M(ドイツ)等の国内外の拠点との相互連携等)
 - d. **事業化支援** (サイエンスカフェ、金融機関との連携・交流等)
 - e. **広報機能** (拠点のプロモーション(出版物、展示会)等)

川崎市産業振興財団が川崎市と協働して実施、新たな国支援プログラムの獲得を図るとともに、川崎市は事業費及び体制面での支援を行う。

- ②エリアマネジメント機能
 - a. キングスカイフロントネットワーク協議会の事務局(域内のイベントや交流会の企画・開催)など
この業務は、キングスカイフロントマネジメントセンターが担当する。

(2) スケジュール

- ①令和元(2019)年11月:
 - ◆ 川崎市産業振興財団内に「クラスター運営準備室」設置
- ②令和2(2020)年4月~:
 - ◆ 川崎市産業振興財団が主体となって、キングスカイフロントのクラスター運営開始
⇒ キングスカイフロントにクラスター運営組織を新たに設置
 - ◆ 新たな国支援プログラムの獲得

川崎市

川崎市

- ① 国の政策・戦略を踏まえた本市施策の立案・推進
- ② 自治体の立場での国内外クラスターとの拠点間連携
- ③ キングスカイフロントへの誘致活動
- ④ キングスカイフロントに必要な機能の導入 など

キングスカイフロントマネジメントセンター

- ⑤ エリアマネジメント機能
(キングスカイフロントネットワーク協議会の事務局) など



獲得



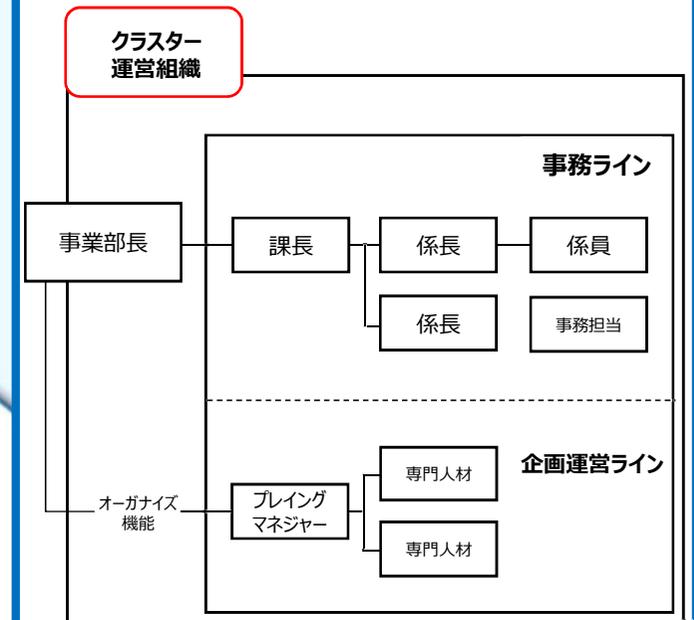
人員体制強化

川崎市産業振興財団

クラスター化推進機能

- ① 競争的・民間資金の獲得
- ② 立地企業間調整
- ③ 視察対応
- ④ 立地企業と市内研究機関とのマッチング
- ⑤ 国内外クラスターとの連携
- ⑥ サイエンスカフェの開催
- ⑦ 金融機関との連携・交流
- ⑧ 拠点のプロモーション（出版物、展示会）など

【キングスカイフロントにおける新たなクラスター運営組織】



※国支援プログラムを活用して体制を充実

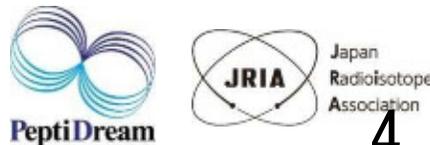
- 事業費及び体制面での支援
- 事業面での連携・協働

キングスカイフロントの立地機関を対象に
マネジメントを実施、研究活動の支援を
総合的に実施

キングスカイフロント立地機関



- ① 異分野融合共同研究開発
- ② 人材育成カリキュラム など



その他の
立地企業・機関

殿町国際戦略拠点キングスカイフロントにおける拠点形成の状況

参考資料 1

69機関が進出決定(令和2年1月1日時点)

面積: 約40ha
 就業者数: 約4,500人
 うちライフサイエンス分野: 約1,400人
 うち研究者: 約500人
 (2018.3月末時点)

羽田空港跡地 第1ゾーン(約16.5ha)

・土地区画整理事業(UR)【道路・公園・駅前広場】
 ・第一期事業(敷地: 約5.9ha 延床: 約131,000㎡)
 施設名称: 「HANEDA INNOVATION CITY」
 事業主体: 羽田みらい開発株式会社(出資企業9社)
 設計施工者: 鹿島建設、大和ハウス工業
 主要用途: 研究開発施設(ラボ・大規模オフィス)、先端医療研究センター(東邦大学 延床9,000㎡)、会議・研修センター(最大670名)、滞在施設(259室)、イベントホール(最大3,000名規模)、日本文化発信施設、飲食施設、水素ステーション等
 ※研究開発施設内の大田区施設活用スペース(仮称)羽田研究開発ラボ
 エユニット数: 17(1ユニット100~200㎡程度、用途はオフィス・ラボ)
 入居募集期間: 2019年9月~11月(第1期)、2020年1月~3月(第2期)

羽田空港跡地 第2ゾーン(約4.3ha)

・プロジェクト名称「羽田エアポートガーデン」
 事業主体: 羽田エアポート都市開発(株)(住友不動産(株)100%子会社)
 主要用途: 宿泊施設(1,717室)、空港直結の展望天然温泉約2,000㎡、飲食・商業施設(約90店舗)、イベントホール(約2,400㎡・最大700名)、会議室・バンケット、バスターミナル(1日約900便発着する15停留所)

(仮称)羽田連絡道路

2020(R2)年度内を目指した整備推進
 (2017(H29)年9月30日竣工)



川崎生命科学・環境研究センター (LiSE) (0.7ha)
 2013(H25)年3月運営開始



富士フイルム富山化学(株) 川崎ラボ(0.3ha)
 2017(H29)年6月運営開始



ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) (0.8ha)
 2015(H27)年4月運営開始



実験動物中央研究所(0.6ha)
 2011(H23)年7月運営開始



川崎キングスカイフロント 東急REIホテル(客室数: 186室)
 2018(H30)年6月運営開始



CYBERDYNE(株) (1.5ha)
 工事着工に向け協議中



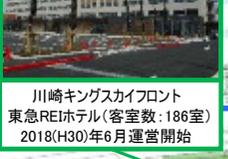
ジョンソン・エンド・ジョンソン インスティテュート(東京サイエンスセンター) (0.3ha)
 2014(H26)年8月運営開始



日本アソート協会 川崎技術開発センター(1.0ha)
 2017(H29)年6月運営開始



リサーチゲートビルディング(RGB2) 2017(H29)年10月運営開始
 ●慶應義塾大学 殿町タウンキャンパス
 ●東京工業大学 中分子IT創薬研究拠点
 ●神奈川県立保健福祉大学 大学院
 ●大日本住友製薬(株)
 ●川崎市キングスカイフロント マネジメントセンター



Shimadzu Tokyo Innovation Plaza(仮称)【(株)島津製作所】
 延床面積: 約9,549㎡
 2021(R3)年4月開所予定



クリエイトメディック(株) 研究開発センター(0.3ha)
 2016(H28)年6月運営開始



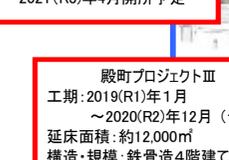
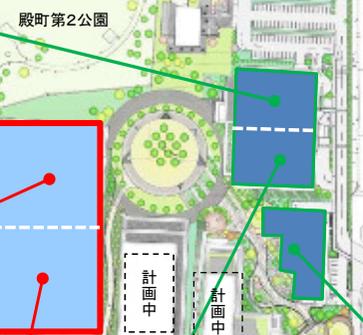
国立医薬品食品衛生研究所 (2.7ha)
 2018(H30)年3月運営開始



ライフイノベーションセンター (LIC) (0.8ha)
 2016(H28)年4月運営開始



ペプチドリーム(株) (0.5ha)
 2017(H29)年8月運営開始



Shimadzu Tokyo Innovation Plaza(仮称)【(株)島津製作所】
 延床面積: 約9,549㎡
 2021(R3)年4月開所予定



日本メトロニック(株) メトロニックイノベーションセンター
 2017(H29)年9月運営開始



リサーチゲートビルディング(RGB1) 2018(H30)年2月竣工
 ●株式会社遺伝子治療研究所
 ●セブンイレブン(コンビニ)
 ●川崎殿町郵便局



JSR Bioscience and informatics R&D Center(略称:JSR BIRD) 【JSR(株)】(0.3ha)
 延床面積: 約6,440㎡
 2021(R3)年7月開所予定



川澄化学工業(株) 殿町研究開発拠点(0.4ha)
 延床面積: 約6,285㎡
 2020(R2)年3月 工事着手予定



(株)ヨドバシカメラ アクセサリーセンター(14.9ha)
 2005(H17)年事業開始
 2017(H29)年2月増設



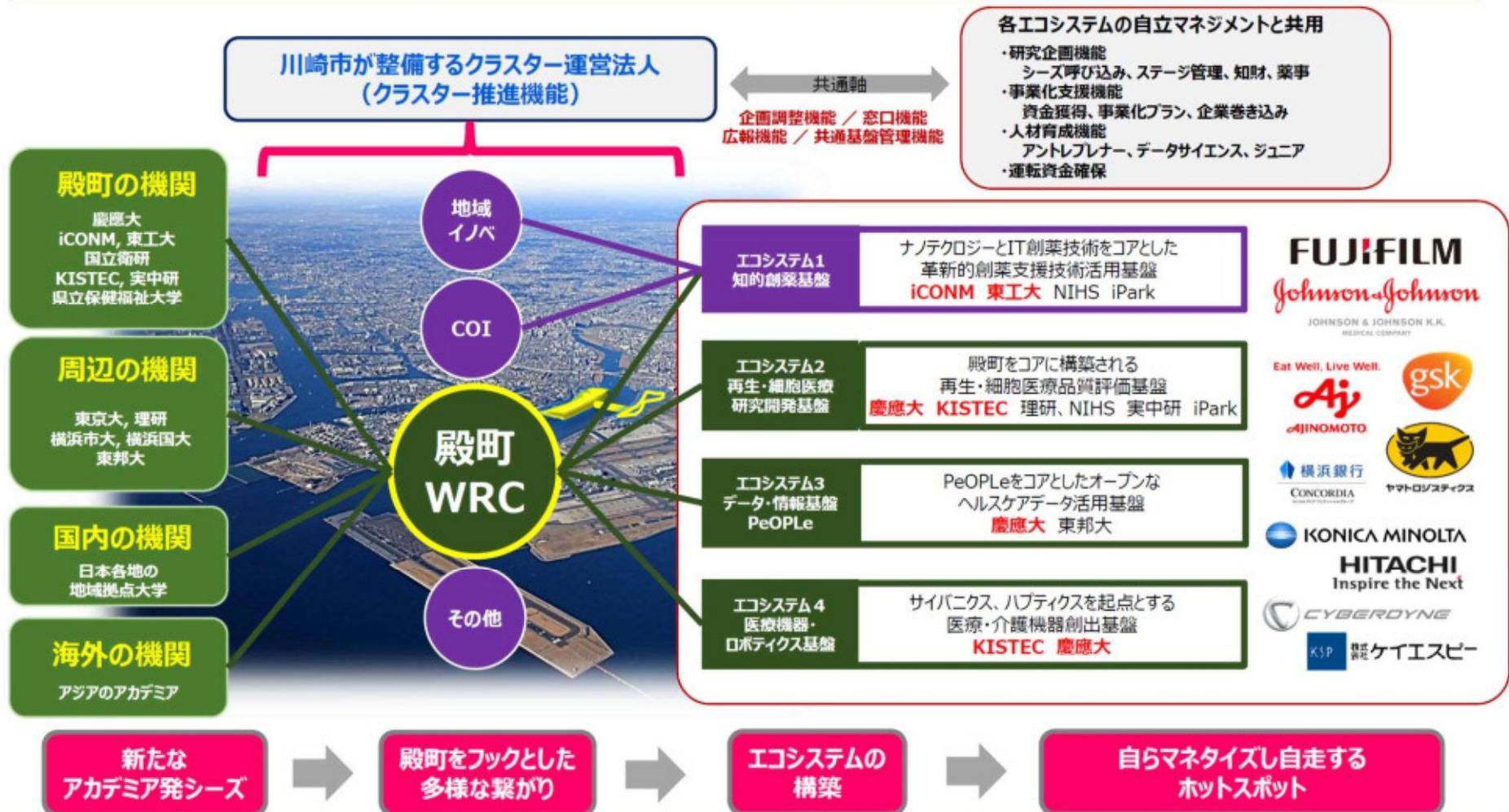
全日本空輸(株) ANA殿町ビジネスセンター(3.0ha)
 ●ゲートリンク株 2011(H23)年運営開始
 ●管理棟 2014(H26)年7月運営開始

■ : 整備済・運営開始済
 ■ : 整備中・整備予定

世界に誇る社会システムと技術の革新で新産業を創る
Wellbeing Research Campus “Tonomachi”

Tonomachi
Wellbeing Research Campus

近未来のヘルスケアと医療を創出するグローバル実装拠点
～ヘルス&ウェルネスのホットスポット～



出典: 慶應義塾大学殿町タウンキャンパス